

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

私は、わたしの英雄だ。

血飛沫が舞う戦闘
心焼かれる恋愛
そんな物語が過ぎ去ったとき
安堵するのは
ずっとわたしが私で在ったこと

ベルリン国立歌劇場などで活躍するドイツの名匠
セバスティアン・ヴァイグレ 常任指揮者
SEBASTIAN WEIGLE, Conductor

ずばぬけた才能で欧米で注目を浴びるピアノの大家
ルーカス・ゲニューシャス ピアノ
LUKAS GENIUŠAS, Piano

ヒンデミット: 主題と変奏「4つの気質」
HINDEMITH: Theme and Variations "The Four Temperaments"

R.シュトラウス: 交響詩「英雄の生涯」 作品40
R. STRAUSS: Ein Heldenleben, op. 40

読売日本交響楽団 第596回 定期演奏会

日下紗矢子 特別客演コンサートマスター
SAYAKO KUSAKA, Concertmaster

2020 3.12 木 19:00 サントリーホール
S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

Subscription Concert No. 596 / Thu. 12 Mar. 2020, 19:00 Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390(10時~18時・年中無休)

<https://yomikyo.or.jp/>

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成: 文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
協力: アフラック

ドラマティックな響き！ ヴァイグレが振る「英雄の生涯」 名手ゲニューシャスが、 会場を熱狂へと導く！

2019年4月に読響の第10代常任指揮者に就任したセバスティアン・ヴァイグレが、得意とするリヒャルト・シュトラウス作品から、傑作「英雄の生涯」を取り上げ、1シーズン目を締めくくる。ヴァイグレは、読響と初共演の2016年8月に「家庭交響曲」などのR.シュトラウス・プログラムで成功を取めたほか、二期会とのオペラ「ばらの騎士」(17年)、「サロメ」(19年6月)でもピットの読響から華麗なサウンドを響かせ、流線型の旋律をしなやかに歌わせた。「聴き手はシュトラウスの和声の綾に巻き込まれていく」(「モーストリー・クラシック」誌/澤谷夏樹評)、「作品の重層的構造を、細部まで明らかに」(「音楽の友」誌/長谷川京介評)など高い評価を得た。1898年に作曲された「英雄の生涯」は、シュトラウスが自身を英雄になぞらえて、自らの功績を称えたとされ、彼の充実した管弦楽法が充分に発揮された作品。作曲家として時代を切り開くエネルギーと、芸術家特有の孤独な側面が同時に描かれている。今回、ヴァイグレは細部まで美意識を行き届かせつつも、100名を超える大オーケストラを自在にドライブし、ライブ感あふれる演奏を生むだろう。特別客演コンサートマスターの目下紗矢子の艶やかなソロにもご注目いただきたい。

前半には、1940年にヒンデミットがジョージ・バラシンの振付による同名のバレエのために作曲した、ピアノと弦楽合奏による「4つの気質」を演奏する。独奏には、ロシアのピアノの大家として注目を浴びるルーカス・ゲニューシャスが登場。2018年「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」音楽祭でのリサイタルのチケットは完売。ヒンデミットの重要作「ルードウス・トリナス」で満員の聴衆を魅了し、クラシック通たちを唸らせた。今回も、得意とするヒンデミット作品で深い芸術性へと到達する。この作品は、古代ギリシアの医師ヒポクラテスの四体液説による人間の気質の分類法を基にした4つの変奏で構成されている。同じテーマが執拗に繰り返される第3変奏「粘液質」や、怒りをぶつけるような激しい第4変奏「胆汁質」などで、彼の技巧が冴えわたり、パッションがあふれるだろう。

セバスティアン・ヴァイグレ 常任指揮者 SEBASTIAN WEIGLE, Conductor

2019年4月から読響第10代常任指揮者を務めるドイツの名匠。ベルリン生まれ。1982年からベルリン国立歌劇場管の首席ホルン奏者として活躍後、指揮者に転身。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス(影のない女)を振り、雑誌「オーブンヴェルト」の「年間最優秀指揮者」に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、08年からフランクフルト歌劇場音楽総監督の任にある。同歌劇場は「オーブンヴェルト」の「年間最優秀オーケストラ」や「年間最優秀歌劇場」に輝くなど、その手腕は高く評価されている。パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン放送響、ウィーン響などで活躍している。

©読響



ルーカス・ゲニューシャス ピアノ LUKAS GENIUŠAS, Piano

ずばぬけた才能を持ち、欧米で注目を浴びるピアノの大家。1990年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院の教授であった祖母ゴルノスターエフから影響を受ける。バックウアー国際コンクール優勝。2010年のショパン国際コンクールと2015年のチャイコフスキー国際コンクールで第2位。ゲルギエフ、フレトニョス、スラットキン、ソヒエフらの指揮で、サンクトペテルブルク・フィル、マリインスキー歌劇場管、フランス放送フィル、パーミンガム市響、モントリオール響などと共演。ラ・ロック・ダンテロン音楽祭、ロッケンハウス音楽祭などに出演。レパートリーはベートーヴェンからヒンデミット、ジョン・アダムズまで幅広い。メロディア・レーベルなどからCDをリリースしており、ディアパソン・ドール賞などに輝いている。

©Mikhail Krutman

読響日本交響楽団 第596回 定期演奏会

2020年 **3月12日** (木) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。
 ■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017